

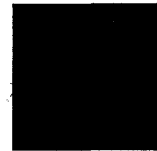
(様式第9)

保健衛生大学病院12号

平成19年10月2日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人  
理事長 山路正



藤田保健衛生大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	163人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	407人	38.5人	445.5人	看護業務補助	59人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	3.3人	11.3人	理学療法士	20人	臨床 臨床検査技師	100人
薬剤師	57人	0人	57.0人	作業療法士	12人	衛生検査技師	0人
保健師	2人	0人	2.0人	視能訓練士	4人	検査 その他	0人
助産師	11人	0人	11.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	921人	6.1人	927.1人	臨床工学技士	25人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	14人	1.3人	15.3人	栄養士	8人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	2人	事務職員	201人
管理栄養士	22人	0人	22.0人	診療放射線技師	66人	その他の職員	64人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	1,122.1人	16.1人	1,138.2人
1日当たり平均外来患者数	1,857.1人	83.0人	1,940.1人
1日当たり平均調剤数	2,122剤		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数を（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/>	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/>	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/>	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/>	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/>	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/>	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> ・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/>	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/>	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/>	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/>	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/>	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/>	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/>	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/>	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/>	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/>	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/>	人
・栄養障害型表皮水泡症のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/>	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/>	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/>	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/>	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/>	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/>	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/>	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/>	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/>	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/>	人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/>	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/>	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/>	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病の DNA 診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
・神経変性疾患の DNA 診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症の DNA 診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	有・無	人
・31 燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィン症の DNA 診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)の RNA 診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患の DNA 診断	有・無	人
・筋過緊張に対する muscle afferent block (MAB) 治療	有・無	人
・Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化 T リンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験 (CD-DST 法)	有・無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
・頰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/>	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/>	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/>	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/>	人
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/>	人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/>	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/>	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/>	人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/>	人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/>	人
人工中耳	有・ <input type="radio"/>	人
歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/>	人
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/>	人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/>	人
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/>	人
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/>	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/>	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/>	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/>	人
超音波骨折治療法	有・ <input type="radio"/>	人
眼底三次元画像解析	有・ <input type="radio"/>	人
CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/>	人
非生体ドナーから摂取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/>	人
X線 CT 診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/>	人
定量的 CT を用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/>	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	54人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	35人
・多発性硬化症	37人	・ウェゲナー肉芽腫症	5人
・重症筋無力症	35人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	53人
・全身性エリテマトーデス	369人	・多系統萎縮症	20人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人
・再生不良性貧血	26人	・膿疱性乾癬	7人
・サルコイドーシス	88人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・原発性胆汁性肝硬変	14人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	216人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	70人	・特発性大腿骨頭壊死症	29人
・結節性動脈周囲炎	30人	・混合性結合組織病	45人
・潰瘍性大腸炎	215人	・原発性免疫不全症候群	8人
・大動脈炎症候群	17人	・特発性間質性肺炎	0人
・ピュルガー病	21人	・網膜色素変性症	13人
・天疱瘡	10人	・プリオン病	2人
・脊髄小脳変性症	39人	・原発性肺高血圧症	6人
・クローン病	221人	・神経線維腫症	6人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	98人	・特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	6人
・アミロイドーシス	4人	・ライソゾーム病（ファブリー [Fabry] 病）含む	9人
・後縦靭帯骨化症	42人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	3人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理部門との症例検討会 72回		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	59 例	剖検率 8.6 %

(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
ヒトノゲム・再生医療等研究事業「骨髄・末梢血等を利用した効果的な造血細胞移植の運用・登録と臨床試験体制の確立並びにドナーおよびレシピエントの安全確保とQOL向上に関する研究」	江崎 幸治	血液・化学療法科	500 千円	厚生労働省 科学研究費 補委
急性骨髄性白血病抗原に対する網羅的検索と新規抗体療法開発のための基礎的研究	山本 幸也	血液・化学療法科	2,000 千円	文部科学省 科学研究費 補委
CD34 陽性細胞を用いた難治性膠原病に対する自己末梢血細胞移植の応用	江崎 幸治	血液・化学療法科	700 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委
亜硫酸を用いた再発 M3 白血病の治療法の開発	恵美 宣彦	血液・化学療法科	600 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委
びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における細胞起源の同定と治療成績との関連性の研究	岡本 昌隆	血液・化学療法科	200 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委
凝固第 VII 因子欠乏家系の遺伝子異常と異常蛋白の機能解析	丸山 文夫	血液・化学療法科	200 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委
細胞表面マーカー及び FISH 法を用いた残存白血病細胞の検出	水田 秀一	血液・化学療法科	200 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委
B 細胞性悪性腫瘍における免疫グロブリン free light chain の臨床的意義の検討	渡辺 正人	血液・化学療法科	200 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委
急性骨髄性白血病抗原に対する網羅的検索と抗体療法薬開発のための基礎的研究	山本 幸也	血液・化学療法科	300 千円	日本私立学校振興 共済事業団 補委



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
自己免疫疾患における抗内皮細胞抗体の対応抗原の新規検出法の確立	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	1,000 千円	補委	21 世紀 COE プログラム研究拠点形成費補助金
MCTD の PH に関する自己抗体の検討	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	2,000 千円	補委	厚生労働省科学研究費
高安動脈炎における抗内皮細胞抗体の検討	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	1,000 千円	補委	厚生労働省科学研究費
膠原病における感染症の早期診断についての検討	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	3,473 千円	補委	オープンリサーチセンター整備事業
膠原病患者におけるサイトメガロウイルス (CMV) 感染に関する検討	深谷 修作	リウマチ・感染症内科	400 千円	補委	藤田学園教員研究助成費
インフリキシマブ使用関節リウマチ患者における human anti-chimeric antibodies(HACA)の検出	吉田 秀雄	リウマチ・感染症内科	300 千円	補委	藤田学園教員研究助成費
IgA 腎症の成因と治療法の検討 -ヒト IgA1 系球体沈着動物モデル作製とその適用-	比企 能之	腎内科	1,000 千円	補委	文部科学省科学研究費
IgA 腎症の成因と治療法の検討 糖鎖不全 IgA の系球体沈着機序とその生産機序	比企 能之	腎内科	1,000 千円	補委	21 世紀 COE プログラム
IgA 腎症マーカーとしての簡便な IgA1 ヒンジ部糖鎖解析法の開発	比企 能之	腎内科	3,000 千円	補委	バイオテクノロジー開発技術研究組合
白血球系細胞除去療法による顆粒球上 TNF レセプター、CD63、CD63b の変動	長谷川みどり	腎内科	100 千円	補委	愛知腎臓財団
透析患者血清中のメラニン関連代謝物の動態	村上 和隆	腎内科	100 千円	補委	愛知腎臓財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
老人施設・在宅における高齢者排泄リハビリテーションに関する施設評価基準の作成と地域モデルの開発 在宅における評価基準の評価と問題点・課題の抽出	中井 滋	腎内科	100 千円	補委	厚生労働省 科学研究費
SELDI-TOFMS lectin assay による IgA1 ヒンジ部 O 結合型糖鎖構造異常の解析	高橋 和男	腎内科	400 千円	補委	愛知腎臓財団
ヒト臍帯静脈血管内皮細胞における細胞内 BH4 と細胞接着分子 VCAM-1 の関連性	松本 崇	内分泌代謝内科	1,000 千円	補委	私学振興・共済事業団 大学院高度化推進特別経費—大学院整備重点化経費—研究科特別（学生分）
人工抗体を用いた脂肪細胞制御	伊藤 光泰	内分泌代謝内科	800 千円	補委	文部科学省 21 世紀 COE プログラム
抗ガングリオシド抗体による神経細胞機能障害の機序解明	武藤多津郎	神経内科	1,400 千円	補委	文部科学省 科学研究費
アルツハイマー病をはじめとする変性痴呆疾患と糖脂質代謝異常	武藤多津郎	神経内科	2,200 千円	補委	文部科学省 科学研究費
脱髄性自己免疫疾患の発症機序におけるアストロサイトの役割の解明	原 英夫	神経内科	1,100 千円	補委	厚生労働省
統合失調症株化末梢血を用いた診断法の開発	岩田 仲生	精神科	3,000 千円	補委	文部科学省 科学研究費
概日リズム障害と気分障害を包括的にとらえたゲノム医学的研究	北島 剛司	精神科	1,100 千円	補委	文部科学省 科学研究費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
症状特性によるグルーピングに留意した統合失調症の5-HT系候補遺伝子研究	鈴木 竜世	精神科	1,100 千円	補委	文部科学省 科学研究費
カルシニューリン系候補遺伝子の研究	木下 葉子	精神科	1,800 千円	補委	文部科学省 科学研究費
神経難病の病態解明と再生医療的および遺伝子治療的新規治療法の開発	岩田 仲生	精神科	4,450 千円	補委	私立大学等経常費 補助金
抹消血サンプルを用いた統合失調症診断法の開発	岩田 仲生	精神科	4,600 千円	補委	私立大学等経常費 補助金
ニコチン性アセチルコリン受容体遺伝子多型と統合失調症の関連解析	岩田 仲生	精神科	1,000 千円	補委	私立大学等経常費 補助金
医療面接で心理的対応と支持的精神療法を獲得するための教育法の確立	岩田 仲生	精神科	400 千円	補委	私立大学等経常費 補助金
統合失調症抹消血を利用した診断法及び治療反応性予測法の開発	岩田 仲生	精神科	2,000 千円	補委	21世紀 COE プログラム研究費
統合失調症の生物学的病態解明と予防・治療法の開発	岩田 仲生	精神科	2,500 千円	補委	厚生労働省 科学研究費
HHV-6、HHV-7自然歴の解明：残された疑問点の完全解決を目指し	浅野 喜造	小児科	4,600 千円	補委	文部科学省 科学研究費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
臓器移植後HIV-6中枢神経系感染症の病態解明ならびに診断治療指針の確立	吉川 哲史	小児科	1,000 千円	補委	文部科学省 科学研究費
低出生体重児の無呼吸発作に対するドキサプラムの安全性・有効性に関する研究	山崎 俊夫	小児科	20,000 千円	補委	厚生労働省
新規細胞導入ペプチドによる膵島移植後の正着率向上効果の検討	松本 慎一	消化器外科(胆・膵)	3,300 千円	補委	文部科学省 科学研究費
生体ドナーからの膵島移植・再生医療によるインスリン依存状態糖尿病治療の確率	松本 慎一	消化器外科(胆・膵)	22,500 千円	補委	文部科学省 科学研究費
肺癌組織の遺伝子発現解析とそれに基づく抗体治療法の研究	服部 良信	呼吸器外科	700 千円	補委	日本私立学校 振興共済事業団
胸腔鏡下手術における安全性および教育に関する検討	根木 浩路	呼吸器外科	300 千円	補委	日本私立学校 振興共済事業団
慢性肺気腫に対する遺伝子治療の実験的研究	須田 隆	呼吸器外科	600 千円	補委	文部科学省 科学研究費
肺・気管支断端瘻に対する遺伝子治療の実験的検討	須田 隆	呼吸器外科	300 千円	補委	日本私立学校 振興共済事業団
肺良性疾患に対する遺伝子治療の実験的検討	長谷川 祥子	呼吸器外科	100 千円	補委	日本私立学校 振興共済事業団
腎性上皮小体機能亢進症において過形成腺が腫瘍化するメカニズムの解析	日比 八東	内分泌外科	1,300 千円	補委	文部科学省 科学研究費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
個人情報に基づく極細径3次元人工血管の創製	根来 真	脳神経外科	24,800 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
ヒトグリオーマ細胞の化学療法剤耐性機構における Akt キナーゼ系の関与の解明	廣瀬 雄一	脳神経外科	3,500 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
医療機器・医用材料の安全性評価手法開発に関する研究	松永佳世子	皮膚科	2,000 千円	補 委	厚生労働省 科学研究費
重篤な皮膚有害事象の診断・治療と遺伝子マーカーに関する研究	松永佳世子	皮膚科	1,000 千円	補 委	厚生労働省 科学研究費
アンチセンスによる腎移植慢性拒絶反応に対する進行阻止の試み	星長 清隆	泌尿器科	3,100 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
腎癌組織特異抗原の解析と腫瘍特異的抗体治療法の研究	白木 良一	泌尿器科	1,800 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
21世紀型感染症の病態解明とその制御に関する統合的プロジェクト	星長 清隆	泌尿器科	3,200 千円	補 委	オープンリサーチ
膀胱尿管逆流症患者における腎瘢痕バイオマーカーの研究	星長 清隆	泌尿器科	800 千円	補 委	文部科学省 科学研究費 COE プロジェクト
腎移植慢性拒絶反応に対する網羅的遺伝子解析と臨床治療への応用	日下 守	泌尿器科	900 千円	補 委	文部科学省 科学研究費 COE プロジェクト
COX-2 inhibitor による Paclitaxel 耐性子宮体癌に対する耐性克服の可能性	宇田川康博	産科・婦人科	800 千円	補 委	日本私立学校 振興共済事業団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
低侵襲性腹腔鏡下手術における術後癒着防止に関する検討—生殖機能温存手術への取り組み—	廣田 稜	産科・婦人科	600 千円	補 委	日本私立学校 振興共済事業団
SCID マウスを用いた Transforming growth factor-beta1(TGFβ1)による卵巣明細胞腺癌への抗腫瘍効果の検討—分子標的治療の基礎的研究—	小宮山慎一	産科・婦人科	400 千円	補 委	日本私立学校 振興共済事業団
RNase Protection Assay における mRNA 発現の画像簡易定量化システムの開発—卵巣明細胞腺癌に対する TGFβ1 分子標的治療の効果判定への導入を志向した研究—	小宮山慎一	産科・婦人科	700 千円	補 委	堀情報科学振興財 団
TGFβ1を用いた卵巣明細胞腺癌に対する治療戦略の開発—分子標的治療を目指して—	小宮山慎一	産科・婦人科	2,200 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
子宮内膜癌と卵巣癌における Cyp1b1 の発現と抗癌剤耐性に関する研究	西尾 永司	産科・婦人科	140 千円	補 委	日本私立学校 振興共済事業団
Podoplanin の卵巣明細胞腺癌に対する臨床応用の検討	大江 収子	産科・婦人科	130 千円	補 委	日本私立学校 振興共済事業団
アルツハイマー病早期診断のための PET 研究 (昨年より継続)	外山 宏	放射線科	5,000 千円	補 委	医科学応用研究財 団
アルツハイマー病早期診断のための分子イメージングに関する基礎的研究	外山 宏	放射線科	300 千円	補 委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
地域住民の口腔保健と全身的な健康状態の関係についての総合研究	才藤栄一	リハビリテーショ ン科	2,500 千円	補 委	厚生労働省 科学研究費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
脊髄損傷者の歩行再建のためのトレッドミル歩行評価指標と訓練法の開発	藤野宏紀	リハビリテーション科	400 千円	補 委	文部科学省 科学研究費
人間支援型ロボット実用化基盤技術開発「自立動作支援ロボットおよび実用化技術の開発」	才藤栄一	リハビリテーション科	16,245 千円	補 委	NEDO 技術開発機構 委託研究開発事業
麻薬感受性予測における圧痛計の応用	竹田 清	麻酔科	600 千円	補 委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
PCPSの作動過程およびウイーンング過程での心臓超音波所見に関する研究	貝沼 関志	麻酔科	500 千円	補 委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費
全胚培養法を応用した口蓋裂発生における各種揮発性麻酔薬の作用機序の解析	山田 守正	麻酔科	100 千円	補 委	藤田保健衛生大学 教員研究助成費

計 72 件

- 注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は、「補」に、委託の場合は、「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cardiol 108(3): 346-353, 2006	High-sensitivity C-reactive protein is predictive of successful cardioversion for atrial fibrillation and maintenance of sinus rhythm after conversion.	渡邊 英一	循環器内科
Angiology 57(2):241-245, 2006	Relief of left ventricular outflow obstruction by cibenzoline in a patient with Fabry's disease -A Case Report.	森本紳一郎	循環器内科
Circ J 70(5): 575-582, 2006	Disorganization of gap junction distribution in dilated atrial of patients with chronic atrial fibrillation.	渡邊 英一	循環器内科
J Epidemiol 16(4): 154-160, 2006	Cardiovascular disease mortality and serum carotenoid levels: a Japanese population-based follow-up study.	菱田 仁士	循環器内科
Circ J 70(8): 1086-1090, 2006	Clinical course of myocarditis through the acute, fulminant and fatal chronic stages.	平光 伸也	循環器内科
Circ J 70(9): 1111-1115, 2006	Impact of angiotensin II receptor blockers on the progression and regression of coronary atherosclerosis - An Intravascular Ultrasound Study	尾崎 行男	循環器内科
Circ J 70 (10): 1318-1321, 2006	Randomized study of angiotensin II type 1 receptor blocker vs dihydropyridine calcium antagonist for the treatment of paroxysmal atrial fibrillation in patients with hypertension- The J-RHYTHM II study design for the investigation of upstream therapy for atrial fibrillation	渡邊 英一	循環器内科
Heart Vessels 21: 356-360, 2006	Role of myocardial interstitial edema in conduction disturbances in acute myocarditis.	森本紳一郎	循環器内科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Am Coll Cardiol 47(7): 1382-1389, 2006	Prognostic value of pacing-induced mechanical alternans in patients with mild to moderate idiopathic dilated cardiomyopathy in sinus rhythm.	山田 晶	循環器内科
J Mol Cell Cardiol 41(2): 318-329, 2006	Attenuation of cardiac dysfunction by a PPAR- $\alpha$ agonist is associated with down-regulation of redox-regulated transcription factors.	山田 晶	循環器内科
Asian Pac J Cancer Prev 7: 533-546, 2006	A population-based follow-up study on mortality from cancer or cardiovascular disease and serum carotenoids, retinol and tocopherols in Japanese inhabitants.	菱田 仁士	循環器内科
Circ J 70:1624-1628, 2006	Japan assessment of pitavastatin and atorvastatin in acute coronary syndrome (Japan-ACS); rationale and design.	尾崎 行男	循環器内科
Clin Chim Acta 372(12):173-178, 2006	New high mobility group box 1 assay system.	石井 潤一	循環器内科
Jpn J Med Ultrasonics 33: 75-81, 2006	単冠動脈と心室中隔欠損を合併した大動脈一尖弁の成人例	岩瀬 正嗣	循環器内科
心療内科 10(2):137-141, 2006	実験的テクノストレスの血管内皮機能に及ぼす影響—%FMD（血流依存性血管拡張反応）による評価—	平光 伸也	循環器内科
心臓 38(8):830-835, 2006	化膿性心膜炎にて心嚢穿刺を行い、約 1 カ月後に収縮性心膜炎を呈し準緊急手術を要した 1 例	奥村 雅徳	循環器内科
The Circulation Frontier 10(3): 39-43, 2006	スクリーニング冠動脈 CT が有用であった心房細動の 1 例	佐藤 貴久	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
形態・機能 5(1): 3-8, 2006	VDT 作業ストレス負荷の心身に及ぼす影響—血漿 PDGF (血小板由来成長因子) およびセロトニン濃度の変動—	平光 伸也	循環器内科
J Cardiol 48(5):253-261, 2006	急性心筋梗塞症におけるシロリムス溶出性ステントの有用性	郷地 朋子	循環器内科
Jpn J Med Ultrasonics 33(6): 647-653, 2006	若年健常男性における左房容積計測の検討	岩瀬 正嗣	循環器内科
J. Aichi Med. Univ. Assoc 34:9-17, 2006	左前下行枝領域に定量的冠動脈造影上有意狭窄病変をもつ虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション、冠動脈バイパス術、薬物治療の短期および長期予後の比較検討	尾崎 行男	循環器内科
J Cardiology 47:307-312, 2006	スタチン投与で冠動脈内巨大脂質プールの退縮を血管内エコー法により確認しえた 1 例.	尾崎 行男	循環器内科
Heart Rhythm 4(1): 27-31, 2007	Seasonal variation in paroxysmal atrial fibrillation documented by 24-hour Holter electrocardiogram.	渡邊 英一	循環器内科
Circ J 71(1): 1-8, 2007	Impact of cutting balloon angioplasty (CBA) prior to bare metal stenting on restenosis – A prospective randomized multicenter trial comparing CBA with balloon angioplasty (BA) before stenting (REDUCE III).	尾崎 行男	循環器内科
Heart Vessels 22(1):25-29, 2007	Significance of transient left ventricular wall thickening in acute lymphocytic myocarditis.	平光 伸也	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart Vessels 22(1):48-51, 2007	Successful high-dose intravenous immunoglobulin therapy for a patient with fulminant myocarditis.	加藤 茂	循環器内科
Circ J 71(3): 363-366, 2007	Atherosclerotic plaque characterization by 0.5-mm-Slice multislice computed tomographic imaging ---Comparison with intravascular ultrasound---	元山 貞子	循環器内科
ファーマナビゲータ COX-2 阻害薬編 336-339,2006	Q&A アスピリン喘息は起こりますか？	榊原 博樹	呼吸器内科・ アレルギー科
喘息 19 (3) :22-26,2006	気管支喘息におけるプロスタグランジンF <sub>2</sub> αとD <sub>2</sub>	齊藤 雄二	呼吸器内科・ アレルギー科
クリニカ 33(4):67-72,2006	アスピリン喘息	榊原 博樹	呼吸器内科・ アレルギー科
臨床と研究 83 (11) : 63-70,2006	アスピリン喘息	榊原 博樹	呼吸器内科・ アレルギー科
Pharma Medica 24 (12) :81-96, 2006	日本の睡眠呼吸障害および睡眠時無呼吸症候群 : 疫学, 診断基準, 診療連携のあり方	榊原 博樹	呼吸器内科・ アレルギー科
Journal of Epidemiology 17(2):54-60,2007	Incidence of Chronic Obstructive Pulmonary Disease, and the Relationship between Age and Smoking in a Japanese Population	Sakakibara H	呼吸器内科・ アレルギー科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Clinical Oncology. 24(3):460-466, 2006	High Complete Remission Rate and Promising Outcome by Combination of Imatinib and Chemotherapy for Newly Diagnosed BCR-ABL-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia: A Phase II Study by the Japan Adult Leukemia Study Group.	Emi N	血液内科・ 化学療法科
Cytogenetic and Genome Research .112:213-221,2006	Different breakage-prone regions on chromosome 1 detected in t(11;14)-positive mantle cell lymphoma cell lines and multiple myeloma cell lines are associated with different tumor progression-related mechanisms.	Emi N	血液内科・ 化学療法科
Journal of Pathology. 208:415-422,2006	Immunoglobulin VH genes in thymic MALT lymphoma are biased toward a restricted repertoire and are frequently unmutated.	Okamoto M	血液内科・ 化学療法科
Bone Marrow Transplantation. 37:381-386,2006	Increased risk for treatment-related mortality after bone marrow transplantation in GSTM1-positive recipients.	Emi N	血液内科・ 化学療法科
Cancer Sci.97(6):540-545, 2006	Sustained activation of c-jun-N-terminal kinase plays a critical role in arsenic trioxide-induced cell apoptosis in multiple myeloma cell lines.	Emi N	血液内科・ 化学療法科
Cancer Sci .97(9) :868-874,2006	Expression profiling analysis of the CD5+ diffuse largeB-cell lymphoma subgroup:Development of a CD5 signature.	Okamoto M	血液内科・ 化学療法科
Ann Hematol. 85:374-380,2006	Multicenter phase II study of the CycLOBEAP(CHOP-like+etoposide and bleomycin) regimen for patients with poor -prognosis aggressive lymphoma.	Okamoto M	血液内科・ 化学療法科
Oral Science International. 3(1);10-12,2006	Successful Hemostasis after Dental Extraction with the Use of Recombinant Activated Factor VII in a Factor VII Deficient Patient.	Okamoto M	血液内科・ 化学療法科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Genetics and Cytogenetics. 169: 1-11,2006	Establishment of a myeloid leukemia cell line, TRL-01, with MLL-ENL fusion gene.	Emi N	血液内科・ 化学療法科
International Journal Pharmaceutics 325:186-190, 2006	Enhancement of transfection activity of lipoplexes by complexation with transferrin-bearing fusogenic polymer-modified liposomes.	Emi N	血液内科・ 化学療法科
Leukemia & Lymphoma. 47(9):1908-1914., 2006	Multicentre phase II study of the baseline BEACOPP regimen for patients with advanced-stage Hodgkin's lymphoma.	Okamoto M	血液内科・ 化学療法科
Hematological Oncology. Dec:24:220-226, 2006	Multicenter phase II study of CycLOBEAP regimen for elderly patients with poor prognosis aggressive lymphoma.	Okamoto M	血液内科・ 化学療法科
血液・腫瘍科 53(1):30-38,2006	造血幹細胞移植の位置づけ	恵美 宣彦	血液内科・ 化学療法科
Medicina 43(7):1122-1125, 2006	急性前骨髄球性白血病	恵美 宣彦	血液内科・ 化学療法科
Medicina 43(7):1099-1102, 2006	化学療法、自家末梢血幹細胞移植を含めて	岡部 起代子	血液内科・ 化学療法科
生物試料分析 29(3):261-266, 2006	WT-1 遺伝子発現定量測定を検討	渡辺 正人	血液内科・ 化学療法科
血液フロンティア 16(9):187-196, 2006	国内における最新臨床研究 再発急性前骨髄球性白血病プロトコール:JALSG APL205R	恵美 宣彦	血液内科・ 化学療法科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本検査血液学会 雑誌 7(2):249-255,2006	自動血球計数装置における1%シュウ酸アンモニウム添加による希釈溶血した検体の血小板数測定の見直し	恵美 宣彦	血液内科・ 化学療法科
今日の移植 19(5):507-510, 2006	M-CSFを使用した臍帯血移植症例	恵美 宣彦	血液内科・ 化学療法科
Progress in Medicine(0287-36 48):27(2):543-546; 2007	各種疾患領域におけるエポプロステノール処方の違い 膠原病内科の立場から	深谷 修作	リウマチ・ 感染症内科
日本内科学会雑誌 (0021-5384):95 (10):2087-2089; 2006	ANCA 関連血管炎に血球貧食症候群を合併し剖検で肺胞蛋白症が明らかとなった1例	小野田 覚	リウマチ・ 感染症内科
HeartView(1342-6 591): 10(8):866-869; 2006	【肺高血圧症を診る】 診る肺高血圧症の臨床分類各論 膠原病に合併する肺高血圧症	深谷 修作	リウマチ・ 感染症内科
治療 89(2):227-231; 2007	関節リウマチの診断と評価よくみられる関節外症状	水谷 昭衛	リウマチ・ 感染症内科
Mebio:23 12:102-109,2006	ステロイドの新しい使い方	吉田 俊治	リウマチ・ 感染症内科
Curr Med Res Opin:23 (2):395-400,2007	Long-term trial of bosentan monotherapy for pulmonary arterial hypertension in Japanese patients.	吉田 俊治	リウマチ・ 感染症内科
Biochemical and Biophysical Research Communications : 580-587, 2006	Structural analyses of O-glycan sugar chains on IgA1 hinge region using SELDI-TOFMS with various lectins	Takahashi K	腎内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Therapeutic Apheresis and Dialysis 10(5): 412-418,2006	Cytapheresis for the Treatment of Myeloperoxidase Antineutrophil Cytoplasmic Autoantibody-Associated Vasculitis: A Pilot Study of 21 Patients	Hasegawa M	腎内科
Nephrology(Carlton)11: A57,2006	Experimental model of IgA nephropathy using KM mouse(second report): Possible protective effect of anti-IgA1 synthetic hinge peptide antibody on glomerular deposition of underglycosylated IgA1	Hiki Y	腎内科
Nephrology 11: A63-64, 2006	Trial of simple methods for analysis of O-glycan structure of IgA1 hinge by SELDI-TOFMS using jacalin-immobilized protein chip arrays; fundamental study toward application to IgA nephropathy screening.	Takahashi K	腎内科
Vaccine 24 : 3591-3598, 2006	Mutant Escherichia coli enterotoxin as a mucosal adjuvant induces specific Th1 responses of CD4+ and CD8+ T cells to nasal killed-bacillus calmette-guerin in mice	Takahashi H	腎内科
透析会誌 39(7): 1237-1244, 2006	糖尿病性腎症による新規慢性透析患者数の推計	中井 滋	腎内科
Nagoya Journal of Medicine Science 68:63-65, 2006	Gitelman's syndrome with silent thyroiditis	鈴木 敦詞	内分泌代謝内科
Journal of Bone and Mineral Research 21(5): 674-683,2006	Enhanced Expression of the Inorganic Phosphate Transporter Pit-1 Is Involved in BMP-2-Induced Matrix Mineralization in Osteoblast-Like Cells	鈴木 敦詞	内分泌代謝内科
Endocrine Journal 53(4):503-510, 2006	Hypovitaminosis D in Type 2 Diabetes Mellitus: Association with Microvascular Complications and Type of Treatment	鈴木 敦詞	内分泌代謝内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gen Intern Med 21:212-218,2006	Medical Student Abuse During Clinical Clerkships in Japan	Ino T	一般内科
BMC Medical Education 6:33, 2006	Quality of care associated with number of case seen and self-reports of clinical competence for Japanese physicians-in-training in internal medicine	Ino T	一般内科
日本老年医学会雑誌 43(6):726-729, 2006	我が国の高齢者医療・介護の行方を 決めるものは医療環境の動向である (Pro) (高齢者医療の立場から) —チーム医療推進について—	浅井 幹一	一般内科
FEBS Letter 580(21):4991-4995 ,2006	Detection of new anti-neutral glycosphingolipids antibodies and their effects on Trk neurotrophin receptors.	Mihara T	神経内科
CNS Neurol Disord Drug Targets 5(4):375-380,2006	Role of glycosphingolipids and therapeutic perspectives on Alzheimer's disease.	Mutoh T	神経内科
精神薬療研究年報 39:133-138,2007	HPA-axis 関連遺伝子多型と Fluvoxamine 反応性との関連解析	木下 葉子	精神科
臨床精神薬理 9(8):1647-1652, 2006	常用薬としての risperidone 液剤分 包の患者評価と客観評価 —抗精神 病薬の剤形は服薬アドヒアランスに どう影響するか?—	岩田 仲生	精神科
精神科 9(1): 89-95,2006	精神症状を主訴とした特発性正常圧 水頭症患者の 2 例	鈴木 竜世	精神科
Clinical and Experimental Allergy 36:1538-1545, 2006	Allergen-specific helper T cell response in patients with cow's milk allergy: simultaneous analysis of proliferation and cytokine production by carboxyfluorescein succinimidyl ester dilution assay	Tsuge I	小児科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Allergy Clin Immunol 118(6):1382-1383, 2006	Parvalbumin is not responsible for cross-reactivity between tuna and marlin: A case report	Kondo Y	小児科
日本小児科学会雑誌 110(4):557-560,20 06	1型糖尿病の経過中に微少変化型ネフローゼ症候群を発症した1例	山本 康人	小児科
日本小児腎不全学会雑誌 26 : 221-223,2006	汎発性膿疱性乾癬の経過中に IgA 腎症を発症した 1 例	諸岡 正史	小児科
Journal of Medical Virology 78(1):112-116, 2006	Latent Infection of Human Herpesvirus 7 in CD4 <sup>+</sup> T Lymphocytes	Miyake F	小児科
Journal of Virological Methods 132:216-221, 2006	Development of the loop-mediated isothermal amplification method for rapid detection of cytomegalovirus DNA	Yoshikawa T	小児科
Journal of Medical Virology 78(6):792-799, 2006	Time Course Characteristics of Human Herpesvirus 6 Specific Cellular Immune Response and Natural Killer Cell Activity in Patients With Exanthema Subitum	Yoshikawa T	小児科
Journal of Clinical Virology 37:128-133, 2006	Rapid detection of Epstein-Barr virus DNA by loop-mediated isothermal amplification method	Yoshikawa T	小児科
Journal of Clinical Virology 37(Suppl 1):S92-S96, 2006	Human herpesvirus 6 reactivation and inflammatory cytokine production in patients with drug-induced hypersensitivity syndrome	Yoshikawa T	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Internal Medicine 45(7):417-418, 2006	Human Herpesvirus 6 Causes Hepatitis in Transplant Recipients	Yoshikawa T	小児科
J Occup Health 48(6):417-423, 2006	Human Herpesvirus 6 Reactivation in Trichloroethylene-exposed Workers Suffering from Generalized Skin Disorders Accompanied by Hepatic Dysfunction	Yoshikawa T	小児科
小児科診療(増刊 号) 69:884-887,2006	合併症母体から出生した児の管理	山崎 俊夫	小児科
Neonatal Care 19(1):15-18,2006	アミノフィリン・テオフィリン、カ フェイン、ドキサプラム	山崎 俊夫	小児科
周産期医学(増刊号 ) 36:490-492,2006	無呼吸発作	山崎 俊夫	小児科
Pacing and Clinical Electrophysiology 30:212-214,2007	Difference in Autonomic Nervous Control between Ventricular Septal Defect and Atrial Septal Defect Based on Heart Rate Variability	Hata T	小児科
XX European Congress of Perinatal Medicine 313-316,2006	Positioning Stabilize the State and the Autonomic Nervous Activity in Preterm Infants	Miyata M	小児科
XX European Congress of Perinatal Medicine 289-291,2006	Low-Dose Doxapram Infusion Does Not Decrease Cerebral Blood Flow in Preterm Infants	Yamazaki T	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ABO 血液型不適合移植の新戦略-2007 54-59,2007	当院外来管理中の小児 ABO 血液型不適合肝移植症例の検討	日比 将人	小児外科
日本小児外科学会 42(6):645-650, 2006	術前から耐糖能障害を伴い生体肝移植後にインスリン依存状態となった先天性門脈欠損症の小児例	日比 将人	小児外科
小児外科 38(7):854-860, 2006	胆道閉鎖症に対する CUSA を用いた肝門部腸吻合術・胆管病態と肝門部の解剖を基にした肝門部処理と縫合の要点・	橋本 俊	小児外科
Liver Transplantation 1112-8 12:1112-1118,2006	The importance of CD25+ CD4+ regulatory T cells in mouse hepatic allograft tolerance	Sugioka A	消化器外科(肝・脾)
Abdominal Imaging 2006	Relatively small size linitis plastica of stomach:muitislice CT detection of tissue fibrosis	Sugioka A	消化器外科(肝・脾)
消化器外科(へるす出版) 30(1):55-64,2007	下大静脈浸潤を伴う肝腫瘍に対する肝切除術	杉岡 篤	消化器外科(肝・脾)
肝胆膵疾患の診断と治療 53-61,2006	胆嚢癌外科治療のトピックス	堀口 明彦	消化器外科(胆・膵)
日臨外会誌 67 (6) 1386-1389,2006	膵管チューブガイド下に膵頭下部切除術を施行した下膵枝領域膵管内乳頭粘液腺腫の1例	堀口 明彦	消化器外科(胆・膵)
臨床外科 61 (9) 1217-1221, 2006	PTBD および PTGBD の適応と手技	堀口 明彦	消化器外科(胆・膵)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術 60(11) 1779-1783, 2006	Von Hippel-Lindau 病に伴った多血性脾腫瘍の1切除例	石原 慎	消化器外科(胆・脾)
日本臨床 64 巻増刊 1 354-357,2006	【脾癌・胆道癌の診断と治療 最新の研究動向】 胆道癌 胆道癌の発癌分子機構・病態 発癌機構 脾・胆管合流異常の癌発生メカニズム	石原 慎	消化器外科(胆・脾)
癌と化学療法 33(4):487-492, 2006	胃癌切除例における Orotate Phosphoribosyltransferase(OPRT) 酵素活性、蛋白に関する臨床病理学的検討	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)
Cancer Society 97(6):492-498, 2006	Orotate phosphoribosyltransferase levels measured by a newly established enzyme-linked immunosorbent assay in gastric carcinoma	Sakurai Y	消化器外科 (上部消化管)
臨床消化器内科 21(8):1133-1140, 2006	H.pylori 感染以外の胃癌の成因 (4)残胃炎と胃癌	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)
Nutrition 22:713-721,2006	Effects of long-term continuous use of immune-enhancing enteral formula on nutritional and immunologic status in non-surgical patients	Sakurai Y	消化器外科 (上部消化管)
癌と化学療法 33(8):1111-1118, 2006	胃癌における Orotate Phosphoribosyltransferase(OPRT) 値の化学療法効果予測ならびに予後予測因子としての臨床的意義	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)
医学のあゆみ 218(5):477-482, 2006	経腸栄養のアクセスー経腸栄養のアクセスルートの選択と合併症の予防	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)
臨床栄養 109(4):450-455, 2006	栄養投与量の決定	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Esophagus 3:113-119,2006	Esophageal duplication cyst continuously extending into the peritoneal cavity on the proximal portion of the stomach	Sakurai Y	消化器外科 (上部消化管)
Esophagus 3:131-135,2006	Acute upper gastrointestinal bleeding from multiple Barrett's ulcers associated with metachronous multiple colorectal carcinomas	Sakurai Y	消化器外科 (上部消化管)
消化器外科 29(11):1565-1571, 2006	食道・胃・大腸・胆道・肝・脾における腹腔鏡下手術 胃切除	宇山 一朗	消化器外科 (上部消化管)
胃と腸 41(11):1517-1520, 2006	早期胃癌に対する ESD と腹腔鏡下手術の接点 私はこう考える：外科の立場から	宇山 一朗	消化器外科 (上部消化管)
外科と代謝・栄養 40(6):283-295, 2006	末梢組織におけるアミノ酸バランス、トランスポートに対する TNF- $\alpha$ の投与効果	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)
癌と化学療法 34(1):21-24,2007	胃癌に対する腹腔鏡下手術の進歩	宇山 一朗	消化器外科 (上部消化管)
外科治療 96(1):25-30,2007	胃癌に対する内視鏡下手術 進行胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術	宇山 一朗	消化器外科 (上部消化管)
JOHNS 23(3):436-439, 2007	手術・手技のコツ 胃瘻造設とその管理のコツは？	桜井 洋一	消化器外科 (上部消化管)
胃と腸 41(4):562-566, 2006	各論 1. 早期癌に対する内視鏡治療 4) 大腸 (3) 経肛門的外的切除 (MITAS および TEM)	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器科 42(5):468-472, 2006	便失禁の病態とその治療	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
手術—ここ 30 年の 変化 60(10):1470-1474, 2006	大腸癌の手術	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
救急医学 30:1537-1541, 2006	大腸穿孔	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
消化器科 42(5):468-472, 2006	便失禁の病態とその治療	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
臨床外科 61(11):171-178, 2006	腹会陰式直腸切除術	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
外科 68(9)1037-1042, 2006	直腸早期癌に対する治療上の諸問題 —EMR, ESD, TEMと切除術 の対比—	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
外科 68(12)1535-1539, 2006	毛巣洞, 毛巣瘻手術	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
外科治療 96(2)156-160,2007	Fournier 症候群の治療	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
外科治療 96(2)222-226, 2007	稀な組織型の肛門腫瘍	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床外科 62(1)41-46,2007	直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術の適応と限界	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)
Surgery Today 36 :30-36, 2006	Modified Double-Stapling Technique in Low Anterior Resection for Lower Rectal Carcinoma	Sato H	消化器外科 (下部消化管)
Tech Coloproctal 10:249-252,2006	Mucinous adenocarcinoma associated with chronic anal fistula reconstructed by gracilis myocutaneous flaps	Sato H	消化器外科 (下部消化管)
Disease of the Colon&Rectum 49(10) :3-12 ,2006	Who Can Get the Beneficial Effect from Lateral Lymph Node Dissection for Dukes C Rectal Carcinoma Below the Peritoneal Reflection?	Sato H	消化器外科 (下部消化管)
第 92 回日本消化器病学会 103:A241,2006	再発時期別にみた大腸癌術後再発例の特徴とフォローアップ法の検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
第 31 回日本外科系連合学会学術集会 S2-10:386,2006	子宮・膀胱脱・rectocele・肛門括約筋不全に対し婦人科・外科協同手術を施行した症例（シンポジウム）	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第 31 回日本外科系連合学会学術集会 P16:628,2006	大腸印環細胞癌の臨床的検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会 39(7):508,2006	クローン病の外科的治療の問題点に対する工夫	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)
第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会 39(7):372,2006	転移個数から見た下部直腸癌における側方リンパ節郭清の治療効果の検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第61回日本消化器外科学会定期学術総会 39(7):522,2006	下部直腸癌に対する肛門温存のための intersphincteric resection(ISR)	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第61回日本消化器外科学会定期学術総会 39(7):222,2006	高齢者直腸癌の臨床病理学的検討	升森 宏次	消化器外科 (下部消化管)
第61回日本消化器外科学会定期学術総会(腹腔鏡下大腸切除研究会セミナー)	腹腔鏡下大腸切除術の基本を見直そうー合理的な定型化のためにー	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):731,2006	術前血清 CAE 値からみた再発症例の検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):710,2006	化学療法で腹膜播腫の縮小が認められた転移性小腸癌の一例	安形 俊久	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):666,2006	直腸早期癌に対する経肛門的切除の工夫	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):615,2006	瘻孔病変を伴ったクローン病に対する外科治療	升森 宏次	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):615,2006	当院におけるクローン病の穿孔例の検討 (口演)	野呂 智仁	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):540,2006	当院における完全直腸脱の外科的治療についての検討ーとくに腹腔鏡下手術を中心にー	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本大腸肛門病学会誌 59(9):526,2006	下部直腸肛門癌に対する内肛門括約筋切除を伴う肛門温存術の成績	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):503,2006	直腸早期癌に対する治療法の選択	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
日本大腸肛門病学会誌 59(9):578,2006	人工抗体を用いた大腸癌免疫染色の試み	鎌野 俊彰	消化器外科 (下部消化管)
第 72 回日本消化器内視鏡学会総会 48(2):2130,2006	内視鏡的に整復固定し QOL の改善をみた通過障害を伴った高齢者食道裂孔ヘルニアの 1 例	青山 浩幸	消化器外科 (下部消化管)
日本消化器病学会雑誌 103:A898,2006	大腸癌を含む重複癌症例の臨床的検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 316,2006	教室における直腸癌に対する治療方針とその成績	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 659,2006	クローン病大腸病変に対する治療方針と術式の選択	升森 宏次	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 422,2006	直腸早期癌に対する治療の選択	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 295,2006	当院における腹腔鏡下大腸手術の工夫	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第 68 回日本臨床外科学会総会 455,2006	下部直腸肛門癌に対する内肛門括約筋切除を伴う肛門温存術と手術手技の工夫	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 696,2006	手術が延期になり術前化学放射線療法 5 ヶ月半後に根治術を行い得た進行直腸癌の 1 例	青山 浩幸	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 788,2006	穿孔性腹膜炎を発症した腸結核の 1 例	野呂 智仁	消化器外科 (下部消化管)
第 68 回日本臨床外科学会総会 302,2006	低位前方切除術時の安全な消化管器械吻合	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第 44 回日本癌治療学会総会	超低位直腸癌および肛門癌に対する I S R 症例の検討	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第 44 回日本癌治療学会総会	Stage 大腸癌術後再発例の特徴	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
第 19 回日本内視鏡外科学会総会 332,2006	鏡視下で他科と同時手術を施行した症例の検討	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)
第 19 回日本内視鏡外科学会総会 408,2006	腹腔鏡下手術にて切除し得た腸重積を呈した原発性空腸癌の一例	升森 宏次	消化器外科 (下部消化管)
第 24 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 23(1):35,2007	排便障害の考え方	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第24回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 23(1):102,2007	双孔式ループストーマのストーマ脱出への対応	青山 浩幸	消化器外科 (下部消化管)
第3回日本消化管学会総会学術集会 316:2007	クローン病の経過中、2度穿孔性腹膜炎を発症した1例	野呂 智仁	消化器外科 (下部消化管)
第43回日本腹部救急医学会総会 27(2):411,2007	手術既往のない繰り返す腸閉塞で、腹腔鏡下にS状結腸腸間膜裂孔ヘルニアを診断・治療し得た一例	本多 克行	消化器外科 (下部消化管)
16th World Congress of the International Association of Surgeons & Gastroenterologists Madrid	Extended Lymph Node Dissection for Low Rectal Cancer .Is it Worth Doing?	Maeda K	消化器外科 (下部消化管)
ISUCRS Biennial Congress Istanbul 14,2006	The effect of lateral node dissection for low rectal carcinoma with lymph node metastases according to the number of positive lateral node (poster)	Sato H	消化器外科 (下部消化管)
ISUCRS Biennial Congress Istanbul 66,2006	Button colopexy for stomal prolapse	Aoyama H	消化器外科 (下部消化管)
10th World Congress of Endoscopic Surgery	Outcome and techniques of Laparoscopic surgery for Crohn's disease	Hanai T	消化器外科 (下部消化管)
Preliminary final Program of 2 <sup>nd</sup> east-west colorectal days	Operative procedure and short-term outcome of inter-sphincteric resection for very low rectal and anal cancer	Koide Y	消化器外科 (下部消化管)
35th World Congress Of the international College of Surgeons 273,2006	LAPAROSCOPIC RECTOPEXY AND MIWA-GANT THIERSCH OPERATION FOR FULL THICKNESS RECTAL PROLAPSE	Maeda K	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
10th Japan-Czech Surgen's Symposium	Lateral lymph node dissection for low rectal cancer	Maeda K	消化器外科 (下部消化管)
4th Congress of the Asian Society of Stoma Rehabilitation	Minimally Invasive Surgecal Treatment for Loop Stomal Prolapse in the Transverse Colon	Maeda K	消化器外科 (下部消化管)
20th World Congress of International Society for Digestive Surgery 199,2006	THE EFFECT OF LATERAL LYMPH NODE DISSECTION FOR DUKES CLOW RECTAL CARCINOMA	Sato H	消化器外科 (下部消化管)
20th World Congress of International Society for Digestive Surgery 148,2006	Lateral lymph node dissection for low rectal cancer	Maeda K	消化器外科 (下部消化管)
The 2nd Biennial Scientific Meeting of International Society for Gastrointestinal Hereditary Tumours 103,2006	Tow casea of Desmoid Tumor in the Abdominal Wall and the Mesentery	Masumori K	消化器外科 (下部消化管)
第 42 回中部外科学会総会 91,2006	特発性血小板減少性紫斑病を合併した肛門扁平上皮癌の 1 例	船橋 益夫	消化器外科 (下部消化管)
第 27 回愛知臨床外科学会 23,2007	傍十二指腸裂孔ヘルニアの一例	遠藤 智美	消化器外科 (下部消化管)
第 15 回東海大腸外科治療研究会	完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定手術	花井 恒一	消化器外科 (下部消化管)
第 65 回大腸癌研究会 70,2006	潰瘍性大腸炎に合併した大腸癌および dysplasia 症例の検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第10回臨床解剖研究会 57,2006	内肛門括約筋切除を伴う肛門温存術のための内肛門括約筋の解剖学的計測	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
第16回骨盤外科機能温存研究会 22,2006	骨盤内臓器不全に対する複数科による手術治療	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
第11回広島化学療法研究会	直腸癌に対する治療の基礎と臨床	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第16回東海大腸外科治療研究会	左側結腸・直腸癌における腹腔鏡下手術：剥離・吻合	升森 宏次	消化器外科 (下部消化管)
第二回雲嘉南區大腸直腸腫瘤多科整合治療學術研討會 台湾 2006.12月	Minimally invasive surgery for early rectal cancers	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第11回大腸肛門機能カンファレンス	Short-term outcome and anatomical bases of inter-sphincteric resection for very low rectal and anal cancer	小出 欣和	消化器外科 (下部消化管)
第66回大腸癌研究会 43,2007	大腸MP癌に対する適切なリンパ節郭清範囲の検討	佐藤 美信	消化器外科 (下部消化管)
第3回香川消化器手術手技研究会	下部直腸・肛門癌および下部直腸良性疾患に対する手術	前田耕太郎	消化器外科 (下部消化管)
第40回制癌剤適応研究会 64,2007	大腸癌におけるp16 <sup>INK4</sup> およびcaspase3の組織内発現と遺伝子メチル化：5-FUプロドラッグの効果との関連性	船橋 益夫	消化器外科 (下部消化管)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
総合臨牀 55(7): 1839-1845,2006	肺血栓塞栓症—外科的治療	安藤 太三	心臓血管外科
最新医学・別冊 新 しい診断と治療の ABC42, 最新医学 社,109-114	大動脈瘤・大動脈解離 鑑別診断: (2) 腹部大動脈瘤	安藤 太三	心臓血管外科
The Japanese Journal of THORACIC AND CARDIOVASCUL AR SURGERY 54(12):532-534, 2006	Off-pump coronary artery bypass surgery in a renal transplant patient	Hattori K	心臓血管外科
Therapeutic Research 27(6): 1151-1153,2006	致死性急性肺血栓塞栓症の診断と外 科治療	山下 満	心臓血管外科
THERAPEUTIC RESEARCH27(6): 1066-1068,2006	末梢型の慢性肺血栓塞栓症術後肺高 血圧残存例に対して PCPS と IABP を併用した 1 治験例	星野 竜	心臓血管外科
Artif Organs,31(2): 159-162,2007	Right Axillary Vein Cannulation for Percutaneous Cardiopulmonary Support	Tochii M	心臓血管外科
Surgery Today 36(8).676-9 2006	Frozen-section Diagnosis of Smoll-sized Adenocarcinoma of the Lung for Intentional Limitef Surgery	Suda T	呼吸器外科
The Annals of Thoracic Surgery 83(1).308-10 2007	Lung Large Cell Carcinoma ProducingGranulocyte-Colony- Stimulating Factor	Hasegawa S	呼吸器外科
J Surg Res. 135 (1) 150-5,2006	Cu/Zn- AND Mn-SUPEROXIDE DISMUTASE DISTRIBUTION AND CONCENTRATION IN ADRENAL TUMOR	Iwase K	内分泌外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内分泌外科標準テキスト 140-146,2006	TSH 抑制療法：甲状腺の良性・癌における現状	岩瀬 克己	内分泌外科
乳腺疾患の臨床 2006 77-81,2006	乳癌の病態 (Biology) 乳癌の自然史：その発生、増殖、進展、転移	岩瀬 克己	内分泌外科
J Clin Endocrinol Metab. 2006 Feb;91(2):607-13.	Estrogen-metabolizing enzymes in breast cancers from women over the age of 80 years.	Utsumi T	乳腺外科
形成外科 49(5) : 503~509, 2006	上口唇の二次修正からみた初回口唇裂手術の重要性	吉村 陽子	形成外科
形成外科 49(増刊) : S73~ S77,2006	3. 特殊部位損傷の処置法 1) 眉毛、眼瞼	吉村 陽子	形成外科
形成外科 50(3) : 303~310, 2007	初回手術時に行った外鼻形成術の反省と外鼻形態に配慮した唇裂初回手術法	吉村 陽子	形成外科
Pan Arab Journal of Neurosurgery 2006,4,10(1)1-5	Experience with anterior petrosal approach for aneurysms of mid-basilar artery	Kato K	脳神経外科
Medical 臨時増刊号,2006,38(7)92-97	頭部領域での64列マルチスライスヘリカルCT(64rowsMSCT)と次世代CTの256列面検出器CT(256row Area Detector CT)の使用経験	早川 基治	脳神経外科
日本臨床 増刊号 7,2006,10.28,64 313-318	マルチスライス CT	早川 基治	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ningen Dock 2007,03,21(6) 5-10	Combined Microsurgical and Endovascular Modalities for Complex Intracranial Aneurysms	Kato K	脳神経外科
Interventional Neuroradiology 2007,13(Suppl1) 90-93	Extracranial Vertebral Artery Aneurysm Associated with Neurofibromatosis Type1 A Case Report	Hiramitsu H	脳神経外科
脊椎脊髄ジャーナル 19(8):867-870, 2006	仙髄神経切断後の排尿・排便障害 マノメトリー・シストメトリーを使 用した検索結果を基にして	中井 定明	整形外科
Infection Diseases in Clinical Practice 14(4):211-216, 2006	Treatment of infection total knee arthoroplasty.	Hayakawa K	整形外科
関節の外科 33(3):88-94,2006	多関節置換を行った RA 症例の検討	早川 和恵	整形外科
日本人工関節学会 誌 36:260-261,2006	20年以上経過した TKA 症例の検討	早川 和恵	整形外科
日本骨・関節感染症 学会雑誌 20:3-7,2006	人工膝関節置換例の感染予防と対策	早川 和恵	整形外科
膝 31(1):132-136, 2007	RA に対するセメントレス TKA の長 期成績	早川 和恵	整形外科
関節外科 25:145-150,2006	関節軟骨破壊と修復の関節マーカ ーによる評価	山田 治基	整形外科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
中部整災誌 49(4):727-728, 2006	Cement 使用人工股関節置換術における non-metalback cup の中期成績	中川 雅人	整形外科
関節外科 25(10):88-92, 2006.10	後方進入による MIS-THA の短期成績－初期施行 10 例の検討－	金治 有彦	整形外科
日本臨床リウマチ学会雑誌 18(4):298-306, 2006	変形性関節症に対する最新の薬物療法	山田 治基	整形外科
日骨形態誌 16:15-20,2006	変形性関節症の病態を評価する軟骨マーカー－その臨床応用を含めて－	山田 治基	整形外科
Key Engineering Materials 309:1363-1366, 2006	Arthroplasty using ball-and-socket type ceramic prosthesis for the osteoarthritis of the trapeziometacarpal joint of the thumb.	Suzuki K	整形外科
日本肘関節学会雑誌 13(2):135-136, 2006	小児上腕骨外顆骨折治療後の内反肘変形	鈴木 克侍	整形外科
Skeletal Radiol 35:302-305,2006	Concurrent periosteal chondroma and enchondroma of the fibula mimicking chondrosarcoma.	Yamamoto Y	整形外科
Allergology International 55:321-327,2006	Follow-up study of latex-allergic health care workers in Japan	矢上 晶子	皮膚科
臨床看護 32(10):1409-1415, 2006	ラテックスアレルギー	矢上 晶子	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Dermatology 213:341-344,2006	Drug-induced hypersensitivity syndrome due to mexiletine hydrochloride associated with reactivation of human herpesvirus 7	矢上 晶子	皮膚科
アレルギーの臨床 26(13)1029-1035, 2006	ラテックスアレルギーガイドライン 簡易版	松永佳世子	皮膚科
アレルギーの臨床 26(13):1012-1017, 2006	ラテックスアレルゲンの抗原解析	矢上 晶子	皮膚科
日本ラテックスア レルギー研究会会 誌 10:32-40	ラテックスアレルギー安全対策ガイ ドライン 2006 誕生編および皮膚 科編	松永佳世子	皮膚科
Visual Dermatology 5(5):476-479,2006	化粧品による接触皮膚炎を見分ける には？	松永佳世子	皮膚科
Visual Dermatology 6(4):348-349,2007	注入療法を行う時の注意点	高須英津子	皮膚科
泌尿器科紀要 52(39):379-382, 2006	恥骨後式前立腺全摘除術後の直腸尿 道瘻に対し経肛門的瘻孔閉鎖術が奏 功した 1 例	加藤 康人	泌尿器科
臨床泌尿器科 60(4):160-162, 2006	腎尿管膀胱単純撮影の適応、撮影法、 基本的読影法について教えて下さい	佐々木ひと美	泌尿器科
臨床泌尿器科 60(6):351-359, 2006	総説 会陰式根治的前立腺全摘除術	白木 良一	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
今日の移植 19(5):487-497, 2006	献腎移植におけるドナーの増大への 対策	星長 清隆	泌尿器科
現代医学 54(2):195-199, 2006	当院にて施行された献腎移植 102 例 の検討	佐々木ひと美	泌尿器科
Transplant Proceeding 38(10):3347-3350, 2006	Up-regulation of osteopontin, chemokines, adhesion molecule, and heat shock proteins in 1-hour biopsy from cardiac death donor kidneys	Kusaka M	泌尿器科
Transplant Proceeding 38(10):3382-3383, 2006	Should we discard the renal allografts from cardiac death donors that have total ischemic time longer than 24 hours?	Hayakawa K	泌尿器科
Transplantation Proceedings 38(10) 3388-3389 2006	Is pulsatile perfusion necessary for renal transplantation engrafting kidneys from cardiac death donors?	Kusaka M	泌尿器科
本邦における臓器 分配のルールの特 状と理想 45-54,2007	海外事情と移植医の理想	星長清隆	泌尿器科
Transplantation 83(1)62-70,2007	Genomewide expression profiles of rat model renal isografts from brain dead donors	Kusaka M	泌尿器科
今日の治療指針 2007 年版 49-805,2007	泌尿器科疾患「その他の尿路性器先 天異常」	星長清隆	泌尿器科
泌尿器疾患治療の 新しいストラテジー 1(1)338-343	本邦の献腎移植の現状	星長清隆	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Therapeutic Apheresis and Dialysis 11(1):36-41 2007	The Effect of Patient Age and Other Factors on the Maintenance of Permanent Hemodialysis Vascular Access	Hayakawa K	泌尿器科
International Medical Society of Japan No.422 7-8 2007	Present status of deceased donor renal transplantation in Japan	Hoshinaga K	泌尿器科
腎移植・血管外科 18(2)123-130,2007	ドナー腎に多発腎動脈瘤を認めた非血縁間生体腎移植の1例	佐々木ひと美	泌尿器科
Reproductive Medicine and Biology 5(4):263-267,2006	Chemical removal of zona pellucida versus laser assisted hatching after repeated failures of assisted reproductive technology	Udagawa Y	産・婦人科
Oncol.Reports 16:1301-1306, 2006	Adjuvant chemotherapy with irinotecan hydrochloride and cisplatin for clear cell carcinoma of the ovary	Udagawa Y	産・婦人科
Biosci.Biotechnol Biochem 71(1):31-37,2007	Regulation of the phosphatidylinositol 3-Kinase-Akt and the Mitogen-Activated Protein Kinase Pathways by Ursolic Acid in Human Endometrial Cancer Cells	Udagawa Y	産・婦人科
Science Direct 28:487-497,2007	Microarray Analysis of Differentially Expressed Fetal Genes in Placental Tissue Derived from Early and Late Onset Severe Pre-eclampsia	Udagawa Y	産・婦人科
Int J Oncol 12:256-260,2007	Progression-free survival and overall survival of patients with clear cell carcinoma of the ovary treated with paclitaxel-carboplatin or irinotecan-cisplatin :retrospective analysis	Udagawa Y	産・婦人科
日婦腫瘍会誌 24(2):110-118, 2006	子宮頸癌および腔癌，外陰癌における Sentinel node の同定	宇田川康博	産・婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes 55(5):1470-7,2006	Effects of basic fibroblast growth factor on experimental diabetic neuropathy in rats.	Horio N	眼科
Photochemistry and photobiology 2006	Patch-clamp Recording of Human Retinal Photoreceptors and Bipolar Cells (daggerdouble dagger).	Horiguchi M	眼科
臨床眼科 60(13):2089-2093, 2006	アクリルシングルピースを用いた小切開眼内レンズ毛様溝縫着術	大矢 康代	眼科
アレルギーの臨 26(14):1099-1103 2006	特集＝慢性咳嗽の診断と治療 －上気道疾患と咳	内藤 健晴	耳鼻咽喉科
喉頭 18(1):39-43,2006	喉頭紡錘細胞癌の1症例	加藤 久幸	耳鼻咽喉科
日本鼻科学会誌 45 45(4):361-366, 2006	カルシウムイメージング法で解析した嗅細胞におけるヒスタミン応答	三村 英也	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床 52:145-151,2006	胃食道逆流症（GERD）と睡眠障害 －ランソプラザール内服と睡眠内容の検討－	岩田 義弘	耳鼻咽喉科
日耳鼻免疫アレルギー誌 24(4):25-29,2006	厳格に診断された喉頭アレルギー症例に対する塩酸セチリジンの有効性	内藤 健晴	耳鼻咽喉科
Moderan Physician 26(1):82-83,2006	摂食・嚥下障害に対する外科治療	櫻井 一生	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
鼻アレルギーフロンティア 6(2):56-63,2006	2005年スギ花粉飛散期における野外比較試験による塩酸フェキソフェナジンの臨床効果の検討	伊藤 周史	耳鼻咽喉科
Progress in Medicine26(12) 26:3324-3328, 2006	アレルギー性鼻炎における嗅覚障害	三村 英也	耳鼻咽喉科
NeuroImage 31(Suppl. 2): T148, (2006)	In vivo imaging of microglial activation using a peripheral benzodiazepine receptor ligand, [11C]PK11195 and animal PET following implantation of cultured activated microglia into rat striatum.	Gen Kudo	放射線科
Molecular Imaging 5:431-432 (2006)	Stereo-tactic imaging of the rat brain lesions using 1.5 T MRI system -Development of reproducible imaging technique without stereo-tactic device.	Fumitaka Ito	放射線科
麻酔 55(11):1360-1370, 2006	麻酔科医のための気管支内視鏡診断	貝沼 関志	麻酔科
救急・集中治療 18(5・6):725-727, 2006	周術期のペースメーカー・ICDの管理指針、救急・集中治療のガイドライン —最新の治療指針—	貝沼 関志	麻酔科
愛院大歯誌 44(3):1-6,2006	全胚培養法に用いる揮発性吸入麻酔薬曝露装置の開発	山田 守正	麻酔科
日本臨床麻酔学会誌 26:S409,2006	今後の癌性疼痛コントロールにおける神経ブロックの方向性	柳原 尚	麻酔科
OPE NURSING 277(秋季増刊号), 2006	循環系合併症の発生機序と予防・対処法	大原 義隆	麻酔科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Cleft Lip & Palate Foundation Conference 2006	Experimental study of the effect of volatile inhalation anesthetics(VIA) on C57B/6 strain mice using a whole embryo culture system. - 2 <sup>nd</sup> report -	山田 守正	麻酔科
Oral Science International3(1): 10-12,2006	Successful Hemostasis after Dental Extraction with the Use of Recombinant Activated Factor VII in a Factor VII Deficient Patient	Sato K	歯科口腔外科
日本血栓止血学会誌 17(6):695-705, 2006	先天性第Ⅶ因子欠乏症患者に対する遺伝子組換え活性型第Ⅶ因子製剤（注射用ノボセブン）の有効性と安全性	佐藤 公治	歯科口腔外科
愛知学院大学歯学会誌 44(4):525-548, 2006	口唇裂・口蓋裂児の上顎乳歯歯冠形態	相澤 貴子	歯科口腔外科
日本外科学会雑誌 108(1):41-44,2007	病理医及び愛知地域代表の立場から	黒田 誠	病理部
Osteoporosis Japan 14(2):245-248, 2006	ラロキシフェン服用継続率の検討ークリニックにおける骨粗鬆症診療実態調査ー	大島 久二	臨床検査部
Osteoporosis Japan 14(2):217-220, 2006	骨粗鬆症診療における骨代謝マーカー測定の意味 ステロイド性骨粗鬆症への骨代謝マーカーの利用	大島 久二	臨床検査部
日本検査血液学会雑誌 7(2):249-255, 2006	自動血球計数装置における1%シュウ酸アンモニウム添加による希釈溶血した検体の血小板数測定の検討	大島 久二	臨床検査部
日本臨床検査自動化学会誌 31(3):257-262, 2006	Dimension RxL Maxによる心筋マーカー測定の基礎的および臨床的検討	大島 久二	臨床検査部

計 281件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第 1 2)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長                      菱 田   仁 士			
管理担当者氏名	事務局長	村上 唯三郎	安全管理室長	星長 清隆
	総務部長	伊藤 稔	感染対策室長	吉田 俊治
	人事部長代理	岩堀 浩隆	薬剤部長	中野 一子
	入院医事課長	原田 勝己		
	外来医事課長	柘植 宏憲		

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録 エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期 間中の診療経過の要約		総務課 外来医事課 入院医事課 各診療科 フィルム中央管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来カルテ・入院カルテ共電子カルテとしています。</li> <li>・ 外来カルテは 10 年、入院カルテは 30 年としています。</li> <li>・ X線写真は、中央管理しています。なお一部は各診療科毎に保管しています。</li> </ul>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	外来医事課 入院医事課 薬剤部	
規則第 9 条の 2 3 及び第 11 条各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務局長	村上 唯三郎
閲覧担当者氏名	薬剤部長	中野 一子
	総務部長	伊藤 稔
	人事部長代理	岩堀 浩隆
	入院医事課長	原田 勝己
	外来医事課長	柘植 宏憲
閲覧の求めに応じる場所	事務局 応接室	

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	58.3%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		19,407人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,708人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		5,065人
	D：初診の患者の数		51,742人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 3 名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2 名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 3 ) 名 兼任 ( 8 ) 名</li> <li>・ 活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>○安全管理のための委員会で用いる資料及び会議の議事録作成とその保管</li> <li>○事故等に関するカルテの記載確認や指導</li> <li>○事故発生時の対応 (患者家族への説明など) についての確認や指導</li> <li>○事故の発生原因や要因が究明されているか確認や指導</li> <li>○関係部署との連絡調整</li> <li>○安全管理の教育企画・運営・準備</li> <li>○入院患者死亡の確認</li> <li>○セーフティニュース発行 (月1回)</li> </ul> </li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： 安全管理指針、安全な医療サービスを提供するため、人間はエラーを犯すものであることを前提に個人とチーム全体でチェック機能を強化する。本来起きてはならない医療事故 (ニアミスを含む) が発生した場合は個人の責任を追究する目的ではなく、その事故の正確な情報を収集し、適正に分析し対策を講じて再発を防止することに努める。更に医療安全に関する教育・研修を行う。</li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回 他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療問題対策委員会 月1回 (年12回) 安全管理報告全般に関する審議</li> <li>○ 事故防止対策委員会 月1回 (年12回) 安全管理報告に基づく検証・分析・防止策立案</li> <li>○ セーフティマネージャー連絡会 隔月1回 (年6回) 部署への周知</li> </ul> </li> </ul>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 医療安全に対する職員への啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>○鍵はコミュニケーション～コミュニケーションの落とし穴～ 南山大学文学部心理人間学科 山口 真人 先生</li> <li>○名大病院における医療安全の取り組み 名古屋大学医学部附属病院 上田 裕一 先生</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>報告内容の分析、原因究明、防止対策を事故防止対策委員会で審議し、医療問題対策委員会へ提案、方針決定後、セーフティマネージャー連絡会を通じ、各部署職員へ周知する。システム的に改善が必要なものについては、各種委員会を通じ検討を依頼する。</li> <li>教育的な事例については、公開事例検討会を開催し、研修医を含む院内の多職種で検討し、改善案を提議、病院の方針として決定する場合もある。</li> </ul> </li> </ul>	